

患者中心の放射線治療と看護職の役割

東京医療保健大学 草間朋子

【研究の背景】

ICやSDMの重要性・必要性が強調されている中で、患者中心(client-centered practice)のチーム医療・放射線治療を目指していく必要がある。患者中心の放射線治療をチームとして推進していくためには、患者自身が放射線治療を的確に理解し、医療スタッフと治療情報を共有し、治療に積極的に参加していく仕組みづくりが求められる。

【研究の目的】

1) 放射線診療における放射線看護専門看護師(CNS)の役割

野戸結花, 吉田浩二, 漆坂真弓, 北島麻衣子, 草間朋子

看護職の役割は、患者にとって最も身近な存在として、患者の症状マネジメントを包括的、タイムリーに実践することがである。放射線診療に関する専門性の高い実践力を備えた**放射線看護専門看護師(CNS)**が、がんサバイバーのQOL向上のために活動していく仕組みを検討する。

2) 「放射線治療手帳」の作成

加藤知子, 菊野直子, 三上恵子, 有坂光恵, 原嶋弥生, 池田光子, 畑清子, 萬葉憲, 草間朋子
患者も記録でき、患者と医療従事者が放射線治療の情報を共有するための「**放射線治療手帳**」を作成する。

1

【研究成果-2】

「放射線治療手帳」の作成

30人の患者さんに試用

1) 患者さんが役に立ったと回答した項目

- ・治療により現れる可能性のある症状「(75%)
- ・治療予定日(75%)
- ・現れ易い症状に対する自己ケア(69%)
- ・実施した放射線治療内容(69%)
- ・体調の変化等の記録(69%)

2) 治療手帳を使用した患者さんの印象

- ・放射線治療について理解しやすかった(88%)
- ・治療後、皮膚の症状などを自分で観察する習慣が身についた(72%)
- ・日常生活の過ごし方などに気をつけるようになった(63%)

JASTRO NEWSLETTER 2022年No.4 146号(2022年12月25日)

「放射線治療手帳」を紹介。がん放射線療法認定看護師、放射線治療医、診療放射線技師から27件の問い合わせがあり、作成した「放射線治療手帳」を配布し、使用を依頼した。

3

【研究成果-1】

放射線診療における放射線看護専門看護師(CNS)の役割

日本放射線看護学会の協力を得て、
2022年「放射線看護専門看護師(CNS)」が誕生した。

放射線看護専門看護師課程(大学院修士課程)の修了者9名を対象にインタビュー(30~50分/人)を実施し、帰納的に分析した。インタビューの結果、放射線看護専門看護師の活動として以下の事項が明らかとなった。

- 《対応が困難なケースの複雑な状況をひも解く》
- 《ケアの方向性とゴールを再検討し、支援方法を提案する》
- 《対応が困難なケースへのケアを実践する》
- 《潜在化した問題を持つケースに注意を払う》
- 《医療チームの関係維持や育成を行う》
- 《医療被ばくの低減を図る》
- 《職業被ばくの低減や不安に対応する》
- 《放射線看護の質の向上に寄与する》

日本看護協会の資格認定が実現(2022年12月)したので、今後のさらなる活躍が期待される

2

放射線治療における看護職の今後の関わりについて(提案)

【目標】

患者中心の放射線治療(client-centered practice)の推進

- ① 患者参加型の放射線治療の推進
- ② 放射線治療に関するSDMの推進
- ③ 有害事象への症状マネジメントの実践

【短期的な取り組み】

> 「放射線治療手帳」の利用促進を通して

- ・がん患者の療養上の支援
- ・がん患者に対する効果的な診療の補助行為の実施
- ・放射線治療に関する患者の理解度向上
- ・放射線治療に関する医療スタッフ間の情報の共有

> がん拠点病院などへの**専門性の高い看護師(専門看護師、認定看護師)**などの配置の促進(診療報酬上の加算など)

【長期的な取り組み】

> **がんサバイバーに対する長期に(5年生存率、10年生存率の向上に伴う)わたるフォローアップシステム(二次がん、有害事象のリスクなど)の構築**

4